

平成19年2月7日

エイズ動向委員会の結果報告について

- 1 本日の委員会では、平成18年10月2日より平成18年12月31日までの感染症法に基づく患者・感染者報告並びに平成18年10月1日から平成18年12月31日までの任意報告を解析した。
- 2 平成18年10月2日より平成18年12月31日までの間に感染症法に基づき報告された新規エイズ患者数は85件、新規HIV感染者数は235件であった。
患者85件、感染者235件の内訳は、
 - ① 感染原因別では、異性間の性的接触による患者26件、感染者56件、同性間の性的接触による患者44件、感染者154件、静注薬物濫用による患者1件、その他の原因による患者2件、感染者8件、原因不明の患者12件、感染者17件であった。
 - ② 性別では男性患者78件、感染者212件、女性患者7件、感染者23件であった。
 - ③ 年齢区分別では、患者は20代9件、30代31件、40代10件、50歳以上35件、感染者は10代5件、20代61件、30代91件、40代46件、50歳以上32件であった。
 - ④ 国籍別では日本人患者77件、感染者213件、外国人患者8件、感染者22件であった。
 - ⑤ 感染地域別では、国内で感染した患者67件、感染者207件、海外で感染した患者8件、感染者16件、感染地域不明患者10件、感染者12件であった。
- 3 患者85件、感染者235件のうち
 - ① 異性間の性的接触による患者26件、感染者56件のうち日本人男性は、患者21件、感染者35件、日本人女性は、患者3件、感染者12件であった。
また、外国人男性は、感染者3件、外国人女性は、患者2件、感染者6件であった。
同性間の性的接触による患者44件、感染者154件のうち日本人男性は、患者42件、感染者147件であった。
また、外国人男性は、患者2件、感染者7件であった。
 - ② 日本人男性患者73件のうち20代6件、30代28件、40代8件、50歳以上31件、日本人男性感染者200件のうち、10代5件、20代45件、30代80件、40代44件、50歳以上26件であった。
また、日本人女性患者4件のうち30代1件、50歳以上3件、日本人女性感染者13件のうち、20代5件、30代5件、50歳以上3件であった。

③ 外国人男性患者5件のうち、20代1件、30代2件、40代1件、50歳以上1件、外国人男性感染者12件のうち、20代6件、30代2件、40代2件、50歳以上2件であった。

また、外国人女性患者3件のうち、20代2件、40代1件、外国人女性感染者10件のうち、20代5件、30代4件、50歳以上1件であった。

④ 国内感染による患者67件のうち日本人男性が61件、日本人女性が3名、外国人男性が3件であった。

また、国内感染による感染者207件のうち日本人男性が187件、日本人女性が11件、外国人男性が6件、外国人女性が3件であった。

⑤ 海外感染による患者8件のうち日本人男性が4件、外国人男性が2件、外国人女性2件であった。

また、海外感染による感染者16件のうち日本人男性が9件、日本人女性が1件、外国人男性が2件、外国人女性が4件であった。

4 任意報告により

① キャリア等からエイズ患者になったとの報告は1件であった。

② 患者・感染者の死亡は、AIDSが原因の1件、それ以外の3件であった。

5 平成18年1月から12月末までの保健所等におけるHIV抗体検査件数は93,497件、うち自治体を実施する保健所以外の検査件数は23,053件、保健所における相談件数は173,651件であった。

6 平成18年1月から12月末日までの献血件数4,987,857件（速報値）のうち、HIV陽性件数は87件であった。

平成 19 年 2 月 7 日

委員長コメント

【平成 18 年第 4 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 18 年 10 月 2 日から平成 18 年 12 月 31 日までの約 3 か月である。
法定報告に基づく新規 HIV 感染者報告数は 235 件（うち男性 212 件、女性 23 件。前回報告 233 件、前年同時期 195 件）で、平成 18 年第 2 四半期の 248 件に次いで過去 2 位となった。
一方、新規 AIDS 患者報告数は 85 件（うち男性 78 件、女性 7 件。前回報告 107 件）で、前年同時期の新規 AIDS 患者報告数は 89 件である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 HIV 感染者では同性間性的接触によるものが 154 件（全 HIV 感染者報告数の約 66%）と最も多く、そのうち 147 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 56 件（全 HIV 感染者報告数の約 24%、うち男性 38 件、女性 18 件）である。
一方、新規 AIDS 患者では同性間性的接触によるものが 44 件（全 AIDS 患者報告数の約 52%）、異性間性的接触によるものが 26 件（全 AIDS 患者報告数の約 31%、うち男性 21 件、女性 5 件）となっている。
年齢別では、新規 HIV 感染者は 20～30 代が多数（約 65%）を占め、新規 AIDS 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 90%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が半数以上（約 68%）を占めている状態である。
- 3 平成 18 年 10 月～12 月末までの保健所における HIV 抗体検査件数は 31,141 件、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 6,308 件、保健所における相談件数は 53,043 件となっており、いずれも前回及び前年同時期よりも大幅に増加した。

【平成 18 年 年間報告（速報値）】

- ◇ 第 105 回～第 108 回動向委員会への報告数（平成 18 年 1 月 2 日～平成 18 年 12 月 31 日）を集計して、平成 18 年 1 年間を通しての数値を速報値として報告する。
- 4 平成 18 年 1 年間の新規 HIV 感染者報告数（速報値）は 914 件、新規エイズ患者報告数は 390 件、合わせて 1,304 件（一日あたり 3.6 件）で、いずれも昨年までの速報値及び確定値と比較して過去最高を記録した。
※ 速報値の最高は、平成 17 年の HIV 感染者 778 件、平成 16 年のエイズ患者 366 件。合計は平成 17 年の 1,124 件。
※ 確定値の最高は、平成 17 年の HIV 感染者 832 件、平成 16 年のエイズ患者 385 件。合計は平成 17 年の 1,199 件。
 - 5 平成 18 年 1 年間の保健所等における HIV 抗体検査件数（確定値）は、116,550 件（前年 100,287 件）で、昨年に引き続き 10 万件を超え過去 10 年間において最多件数となった。相談件数は 173,651 件（前年同時期 161,474 件）であった。

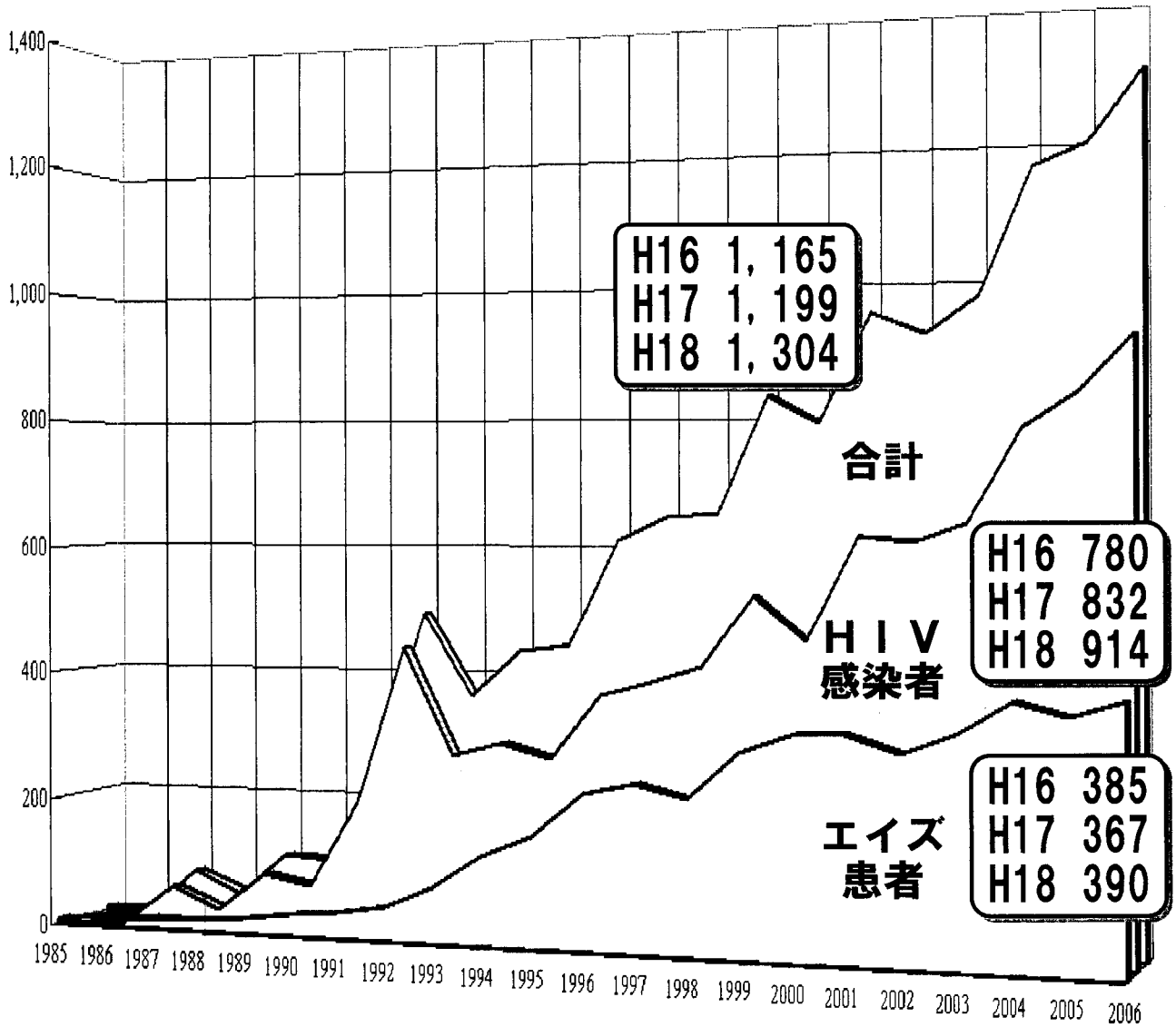
- 6 平成18年1年間の献血件数（速報値）は4,987,857件（昨年5,312,830件）で、そのうちH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数は87件（昨年78件）であった。10万件当たりの陽性件数は1.744件（昨年1.468件）で、前年より増加した。
- 7 新規H I V感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超えている。また年齢別では、20～40代にH I V感染が広がっているものの、前年と比べて30代以上の増加傾向を認めた。このような傾向と、検査・相談件数の増加が、6月に実施したH I V検査普及週間以降も持続し、さらに世界エイズデー期間前後にかけて増加していることを合わせて考えると、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業による検査体制の整備について一定の成果が認められる。一方で、検査・相談件数が減少に転じている自治体もあり、今後も全国的に検査・相談件数の増加傾向が持続するのか注視していく必要がある。
- 8 各自治体においては保健所等を中心に、さらに利用者の利便性（夜間・休日等）に配慮した検査・相談事業を推進することが重要であり、H I V感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。

各自治体（特に重点都道府県等）においては、今回の発生動向を考慮しつつ、エイズ対策推進協議会を開催し、予防も含めたエイズ対策計画を早急に策定の上、より一層のエイズ対策を推進されたい。

また、国民はH I V・A I D Sについての理解を深め、積極的に予防に努め、H I V抗体検査の早期受診に努めるべきである。

HIV感染者・エイズ患者新規報告数の年次推移(速報値版)

(件)



※ 平成18年は速報値

3力年比較（平成16年・17年確定値及び平成18年速報値）

診断区分	項目	区分	日本国籍			外国国籍			合計			
			18年	17年	16年	18年	17年	16年	18年	17年	16年	
HIV	合計		800	741	680	114	91	100	914	832	780	
	感染経路	異性間の性的接触	170	161	159	50	42	41	220	203	200	
		同性間の性的接触*1	545	514	449	32	15	19	577	529	468	
		静注薬物濫用	1	2	2	3	1	1	4	3	3	
		母子感染	1	0	1	0	1	0	1	1	1	
		その他*2	17	9	14	10	2	6	27	11	20	
		不明	66	55	55	19	30	33	85	85	88	
	性	男	751	709	636	75	60	62	826	769	698	
		女	49	32	44	39	31	38	88	63	82	
	年齢	10歳未満	1						1			
		10～19	17	10	7		1	5	17	11	12	
		20～29	217	248	221	38	31	29	255	279	250	
		30～39	325	285	267	47	36	46	372	321	313	
		40～49	141	107	100	16	14	15	157	121	115	
		50歳以上	99	91	85	13	9	5	112	100	90	
		不明										
		感染地	国内	731	663	612	52	26	31	783	689	643
			海外	37	28	25	35	21	24	72	49	49
			不明	32	50	43	27	44	45	59	94	88
	AIDS	合計		342	302	309	48	65	76	390	367	385
		感染経路	異性間の性的接触	120	104	113	14	30	22	134	134	135
			同性間の性的接触*1	150	129	126	8	6	15	158	135	141
			静注薬物濫用	2	3	0	1	4	2	3	7	2
		母子感染	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
		その他*2	10	8	11	0	1	0	10	9	11	
		不明	60	58	59	25	24	36	85	82	95	
性		男	321	291	290	31	49	54	352	340	344	
		女	21	11	19	17	16	22	38	27	41	
年齢		10歳未満										
		10～19					1	1	0	1	1	
		20～29	27	36	29	4	10	11	31	46	40	
		30～39	125	101	98	21	28	33	146	129	131	
		40～49	76	72	74	17	16	22	93	88	96	
		50歳以上	114	93	108	6	10	9	120	103	117	
		不明										
		感染地	国内	279	239	242	19	15	26	298	254	268
			海外	30	23	25	14	30	22	44	53	47
			不明	33	40	42	15	20	28	48	60	70

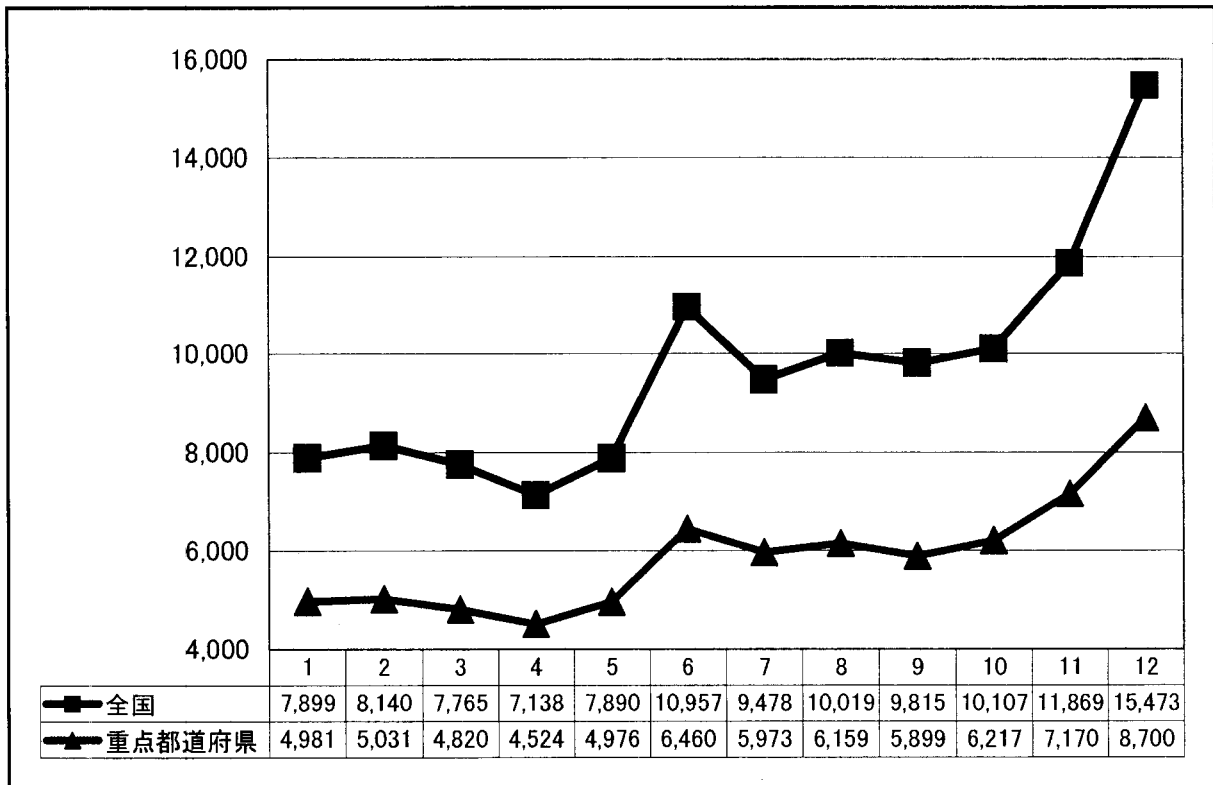
*1 両性間性的接触を含む。

*2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

H I V検査・相談件数の月別推移

【検査】

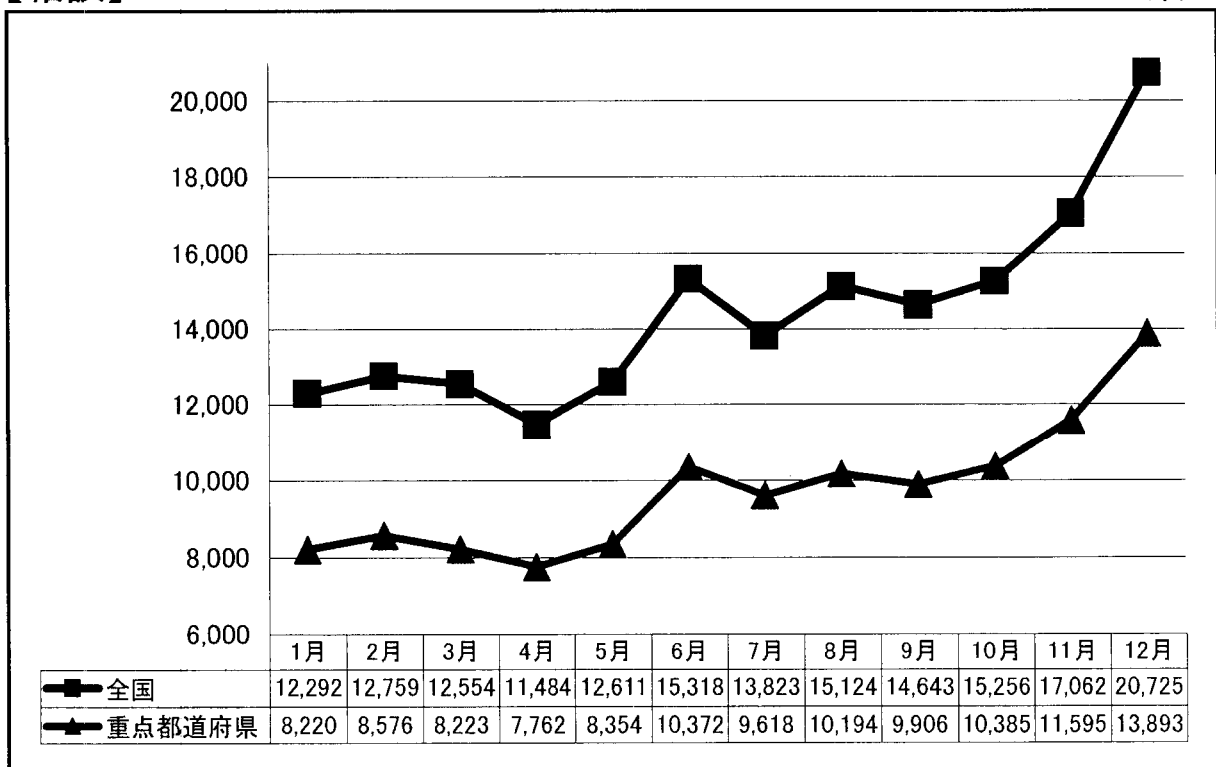
(件)



全国計 平成18年 116,550件(平成17年 100,287件) 前年比+16.2%

【相談】

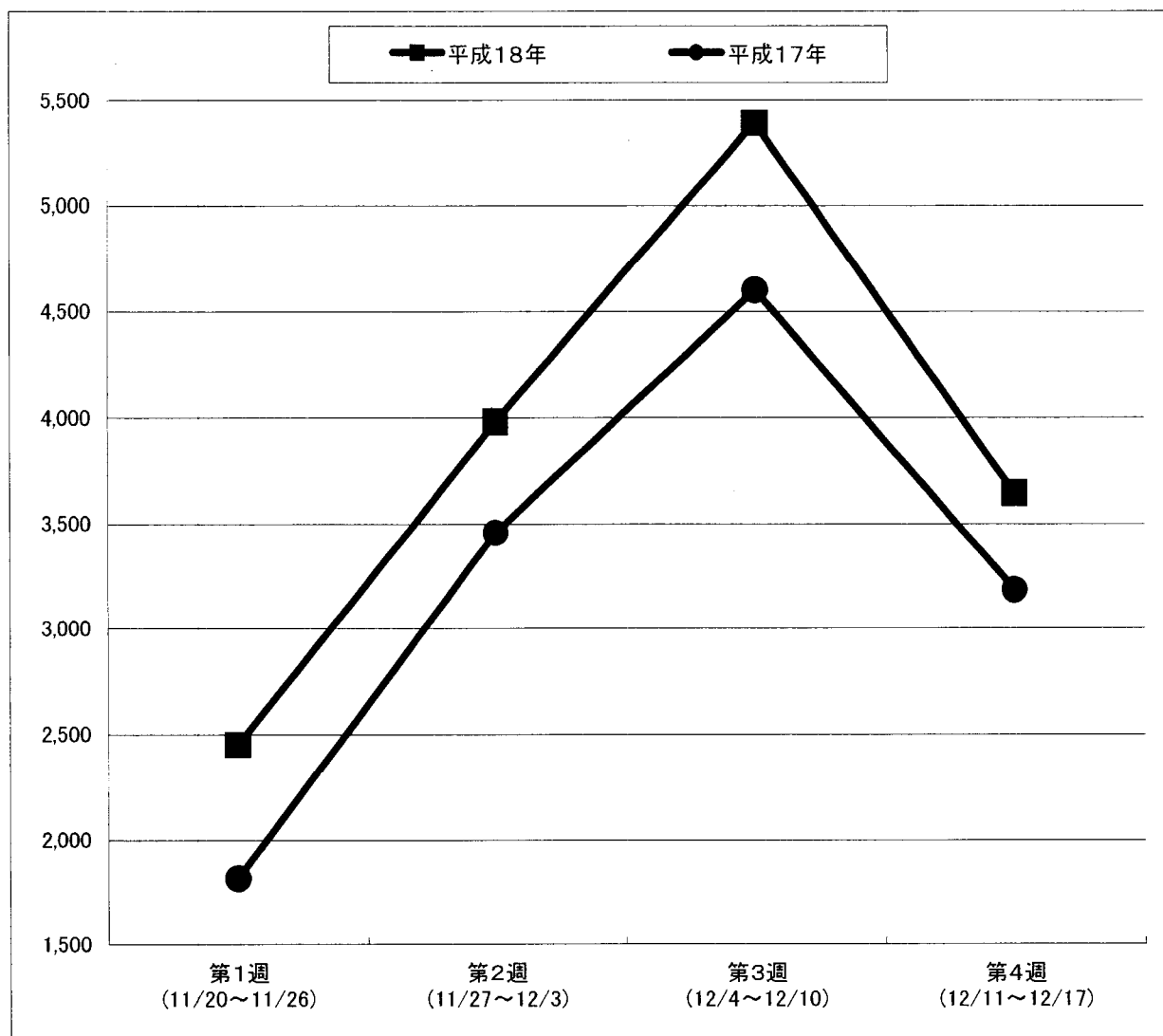
(件)



全国計 平成18年 173,651件(平成17年 161,474件) 前年比+7.5%

※「重点都道府県」は特に感染者・患者の多い10都道府県(茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、愛知県、大阪府、沖縄県)の合計

世界エイズデー前後4週の保健所等における検査件数の推移(全国)



	第1週	第2週	第3週	第4週	合計
平成17年	1,818	3,458	4,601	3,185	13,062
平成18年	2,452	3,983	5,391	3,643	15,469
増加率	1.35	1.15	1.17	1.14	1.18

[参考]

- (1) 保健所設置自治体129カ所のうち、上記期間の検査件数が前年を上回った自治体・・・90自治体
- (2) 世界エイズデー前後に検査体制(夜間・休日・迅速)を強化した自治体90カ所のうち、上記期間の検査件数が前年を上回った自治体・・・67自治体

エイズ予防のための戦略研究の概要

エイズ患者の増加サイクル



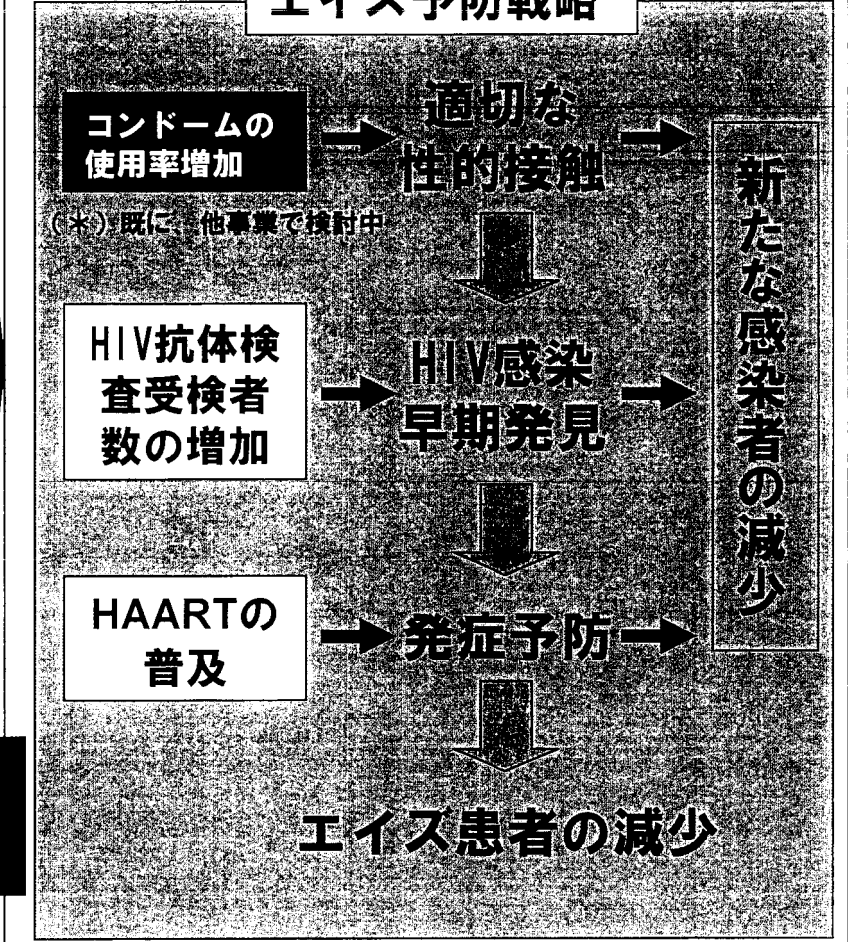
不適切な性的接触：コンドームの非使用
 隠れたHIV感染：HIV抗体検査受検者は感染者の2割程度と推定。
 エイズ発症：HIV感染・エイズ未発症者に対するHAARTのエイズ発症予防効果は非常に高い。

啓発
普及
戦略
・
広報
戦略

HIV
アウトカム
センター

HIV抗体
検査受検者・エイズ発症者を効果的に調査することを目的

エイズ予防戦略

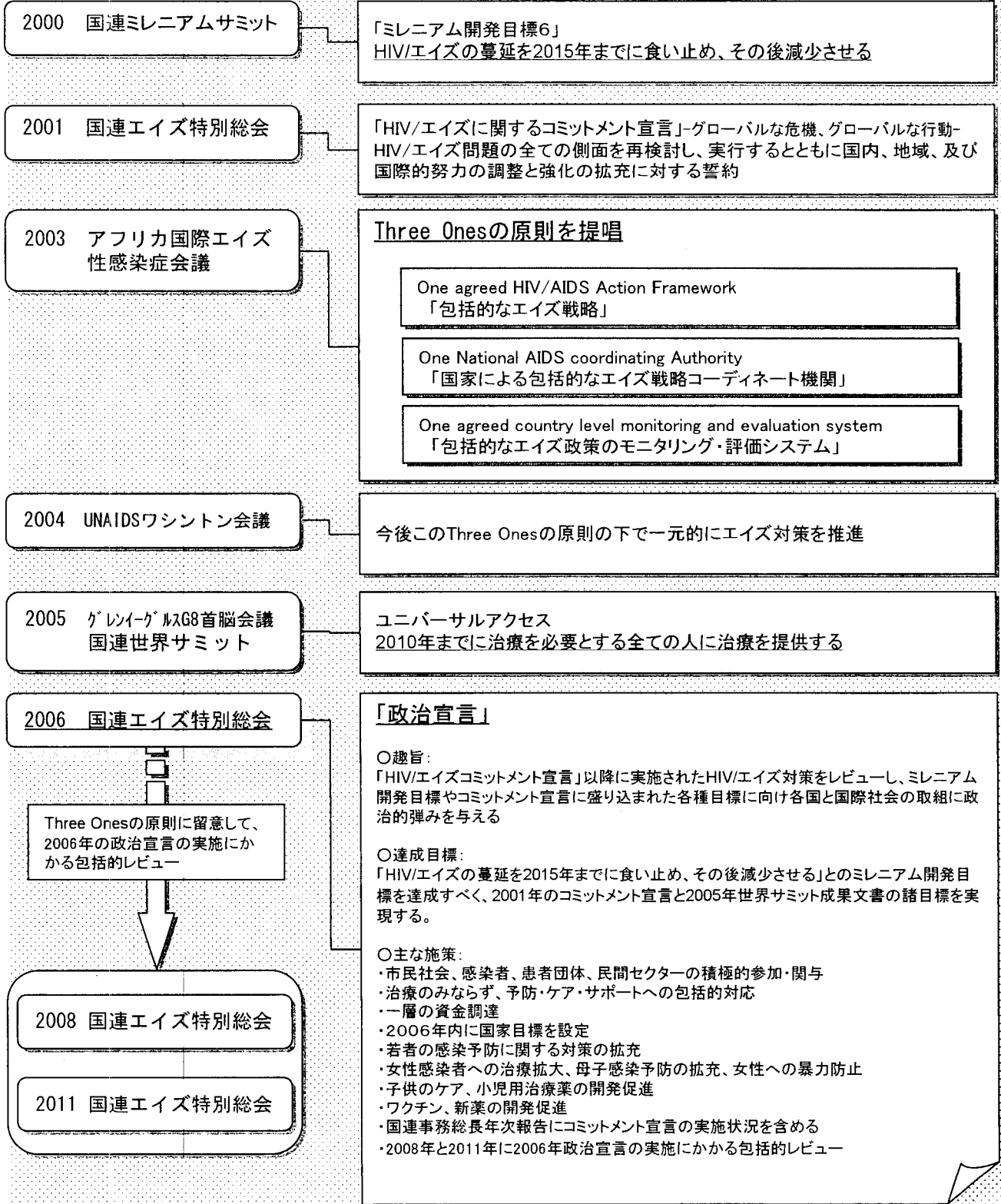


アウトカム：HIV検査受検者数を2倍・AIDS発症者数を25%減少

対象：課題1 首都圏及び阪神圏の男性同性愛者
 課題2 首都圏在住者

主要評価項目：HIV抗体検査受検者・AIDS発症者数
 広報戦略：毎年、効果的な少数のメッセージを、期間集中的に多方面から発することを基本

国連等におけるエイズ対策の主な流れ



今後の目標

2010年までに治療を必要とする全ての人に治療を提供
HIV/エイズの蔓延を2015年までに食い止め、その後減少させる